

社会認識と自分なりの解釈を深めることを通して、

社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける社会科の学習

I 社会科研究の方向性

1 主題設定の理由

グローバル化の進展や技術革新により社会の実態は大きく、急速に変化しており、一人一人が持続可能な社会の担い手として社会参画の意識をもつことが必要な時代になっています。社会科では、新学習指導要領において、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力や構想したことを説明する力、それらを基に議論する力などを育てることが求められています。

しかし、全国学力・学習状況調査質問紙調査の結果を見ると、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は約50%であり、半数は地域や社会の成長に目を向けることができていないと言えます。本校においては、全国平均よりも高い68.5%の児童が肯定的に回答しているものの、より一層、社会の形成者として社会参画への意識を高めていく必要があります。

これまで本校では、社会的事象の見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に課題を追究したり、解決したりする活動を通して、主体的に社会に関わる態度を育てることを重視して研究を進めてきました。社会的事象について複数の視点や立場で捉えたり、社会的事象を関連付けたりすることによって、概念的な知識を獲得する児童の姿が見られました。しかし、社会的事象と自己を結び付けて、社会への関わり方を選択・判断することに関して苦手意識をもっている児童が多くおり、社会の在り方や自己の関わり方を構想する手立てが十分ではないという課題が残りました。

全体研究主題「探究する子供を育てる教育活動の創造」を受けて、社会科における探究の姿を「問題解決の過程を通して、社会の在り方や自己の生き方を追究する姿」と押さえました。

そこで、研究主題を「社会認識と自分なりの解釈を深めることを通して、社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける社会科の学習」と設定しました。「社会認識と自分なりの解釈を深める」とは、問題解決的な学習の中で、社会や人々の営みを適切に理解するとともに、社会的事象の特色や意味について自分なりに根拠をもって捉えることです。「社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける」とは、過去や現在の社会、人々の営みを基にして、「何が大切なのか」「どのようにしたらよいのか」といった問いを生み、価値的・判断的な知識を獲得することです。

2 目指す児童の姿とその具体

- 社会に見られる課題を捉え、自分なりに問いを見いだす姿
- 学習問題を解決するための見通しをもち、調べ学習を通して社会的事象の意味を捉える姿
- 社会に見られる課題と向き合い、社会の在り方や自己の関わり方を考える姿

「社会に見られる課題を捉え、自分なりに問いを見いだす」とは、生活経験やこれまでの学習、新たな資料から生じた疑問や追究への意欲を基に自分なりの問いをもつことです。「学習問題を解決するための見通しをもち、調べ学習を通して社会的事象の意味を捉える」とは、学習問題の解決に向けて調べるべきことや調べ方を押さえ、調べたことを根拠に社会的事象が社会に果たした役割について捉えることです。「社会に見られる課題と向き合い、社会の在り方や自己の関わり方を考える」とは、学習問題の解決を通して得た自分の解釈を基に社会や自己のあるべき姿を考えることです。

II 研究内容の具体

1 社会の在り方や自己の関わり方を見いだす問題解決的な学習過程の充実

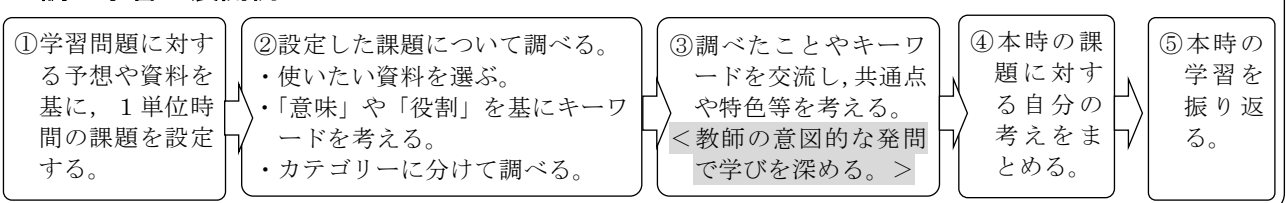
問題解決的な学習過程を充実させることによって、自ら問いをもち、問いを解決する過程において、知識を深めながら社会の在り方や自己の関わり方について見いだす学習が成立すると考えました。また、単元を通して授業をデザインし、どのような見方・考え方を働かせることによって学びが深まるかを考え、発問や資料、学習活動を計画しました。

学習過程		見方	考え方				
I 学習問題をつかむ。 ①旭川市で発生した水害の映像を見て、学習問題を設定する。 学習問題：水害からくらしを守るために、どのような人がどのようなことをしているのだろう。 ②予想を基に学習計画を立てる。→市民、市役所、町内会等の取組について調べる。		空間的 関係的	国民の生活と 関連付け				
II 予想を基に、学習問題について調べる。 <table border="1" style="width:100%"> <thead> <tr> <th>事実的な知識</th> <th>発問</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・各家庭では、非常食を準備したり、洪水ハザードマップで危険な箇所を確認したりしている。 ・市役所では、備蓄倉庫を設けたり、広報誌を発行したりしている。</td> <td>「このような取組によって…」この続きにはどのような言葉が入るでしょう。」 →被害を少なくすることができる。何日か暮らすことができる。</td> </tr> </tbody> </table>		事実的な知識	発問	・各家庭では、非常食を準備したり、洪水ハザードマップで危険な箇所を確認したりしている。 ・市役所では、備蓄倉庫を設けたり、広報誌を発行したりしている。	「このような取組によって…」この続きにはどのような言葉が入るでしょう。」 →被害を少なくすることができる。何日か暮らすことができる。	空間的 関係的	比較・分類
事実的な知識	発問						
・各家庭では、非常食を準備したり、洪水ハザードマップで危険な箇所を確認したりしている。 ・市役所では、備蓄倉庫を設けたり、広報誌を発行したりしている。	「このような取組によって…」この続きにはどのような言葉が入るでしょう。」 →被害を少なくすることができる。何日か暮らすことができる。						
III 学習問題をまとめる。 <table border="1" style="width:100%"> <thead> <tr> <th>概念的な知識</th> <th>発問</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・家庭や市役所、町内会では、それぞれの役割を理解し、いつ水害が起きても避難することができるように準備をしている。</td> <td>「市役所の人が‘公助には限界がある’と言っていたのはなぜだろう。」 →公助だけでは防ぐことはできないし、水害が起こることを想定して、自助の意識を高める必要がある。</td> </tr> </tbody> </table>		概念的な知識	発問	・家庭や市役所、町内会では、それぞれの役割を理解し、いつ水害が起きても避難することができるように準備をしている。	「市役所の人が‘公助には限界がある’と言っていたのはなぜだろう。」 →公助だけでは防ぐことはできないし、水害が起こることを想定して、自助の意識を高める必要がある。	関係的	総合
概念的な知識	発問						
・家庭や市役所、町内会では、それぞれの役割を理解し、いつ水害が起きても避難することができるように準備をしている。	「市役所の人が‘公助には限界がある’と言っていたのはなぜだろう。」 →公助だけでは防ぐことはできないし、水害が起こることを想定して、自助の意識を高める必要がある。						
IV 社会や自己について思考・判断・表現する。 <table border="1" style="width:100%"> <thead> <tr> <th>価値的・判断的な知識</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数年前に旭川で大きな水害があったことも知らなかったし、洪水ハザードマップも見たことがなかったけれど、川のまちである旭川と水害は関係が深いので、水害が起こった時にどこに逃げるか知っておく必要がある。また、常に水に関する情報を伝えている人たちに感謝したい。</td> </tr> </tbody> </table>		価値的・判断的な知識	数年前に旭川で大きな水害があったことも知らなかったし、洪水ハザードマップも見たことがなかったけれど、川のまちである旭川と水害は関係が深いので、水害が起こった時にどこに逃げるか知っておく必要がある。また、常に水に関する情報を伝えている人たちに感謝したい。	時間的 関係的	総合		
価値的・判断的な知識							
数年前に旭川で大きな水害があったことも知らなかったし、洪水ハザードマップも見たことがなかったけれど、川のまちである旭川と水害は関係が深いので、水害が起こった時にどこに逃げるか知っておく必要がある。また、常に水に関する情報を伝えている人たちに感謝したい。							

2 社会的事象の意味を捉え、学びを深める調べ学習の在り方

自ら見いだした問いを解決するための見通しをもち、調べ学習において根拠となる知識を得ることで、単元を通じた問題解決によって学びを深めることができると考えました。そこで、自分なりの根拠をもち、社会的事象の意味を捉える調べ学習の在り方について研究を進めました。

《調べ学習の展開例》



3 社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける姿を見取る評価

児童が社会的事象と自己を結び付け、社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける姿を適切に見取るために、児童が思考・判断したことを、表現活動と一体化させました。また、次の学習への意欲や社会への関心を高めることをねらい、自己の学びを振り返る時間を位置付けました。

ノート等の内容を見取り、指導に生かす	1時間の課題に対するまとめや学習問題に対するまとめについて、事実的な知識や概念的な知識が獲得できているかを見取り、声掛けやコメントでフィードバックする。
振り返りの充実	「学習内容に対して自分が感じたこと」や「学び方（できたこと）」等の視点で振り返る。

＜2年次研究の重点＞

- ・社会的事象の意味を捉え、学びを深める調べ学習の在り方
- ・社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける姿を見取る評価

Ⅲ 研究実践

6年生実践 『近代国家を目ざして』

実践のテーマ：調べ学習を基に日清・日露戦争の影響を考え、日本の国際的地位が向上したことを捉える学習

1 研究授業のねらい

本単元は、条約改正に向けて近代化を進める日本の営みや世界の様子について調べ、急速に日本の国力が充実したことで国際的地位が向上し、条約改正の実現を成し遂げたことを国政や軍事等といった視点から捉えることをねらいとしました。

国際的地位の向上により条約改正を実現させたことを捉えるために、調べ学習を通して、近代化を進める日本の政策や社会の様子を事実として理解することに加え、その意味や役割を考える活動を設定しました。また、学習問題に対する予想を基に学習の見通しをもち、単元を通じた学習問題の解決を進めることができるよう学習問題と1単位時間の課題を関係付けながら学習を進めました。

2 単元の指導計画（9時間扱い）

段階	時間	◇主な学習活動・資料	社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける児童の姿	見方	考え方
学 ぶ め あ て を も つ	①	◇ノルマントン号事件について調べ、条約改正が急務であることを理解する。 ・風刺画「ノルマントン号事件」	ノルマントン号事件の経緯や影響から、当時の社会の状況を理解している姿。	関係的	国民の生活と関係付け
	②	◇条約改正に約50年を要したという事実から、条約改正までの出来事に着目し、学習問題を見いだす。 ・年表「条約改正までの歩み」	年表に記された出来事と条約改正が実現したことを結び付け、学習問題を見いだしている姿。	時間的 関係的	国民の生活と関係付け
		学習問題：どのようにして国際的地位を高め、不平等条約を改正したのだろう。 ◇学習問題に対する予想を基に学習計画を立てる。	自分なりの根拠をもって、学習問題に対する予想を立て、調べるべきことを考える姿。		
確 かな な 追 究 ・ 解 決	③	◇西南戦争や自由民権運動について調べる。 ・イラスト「西南戦争」「自由民権運動」 ・資料「自由民権運動の広がり」	世の中の様子や人物の働きについて、絵画・写真資料、統計、年表等の資料で調べ、条約改正に向けた社会の発展について理解している姿。	関係的	国民の生活と関係付け
	④	◇大日本帝国憲法の発布や国会の開設について調べる。 ・資料「大日本帝国憲法」「政治のしくみ」		関係的	分類・比較
	⑤ 5分	◇日清、日露戦争について調べる。 ・風刺画「朝鮮と日本・清・ロシアの関係」 ・グラフ「賠償金の使い道」	日清・日露戦争について調べ、国力の充実によって日本の国際的地位が向上したことを理解している姿。	空間的 関係的	分類・比較
	⑥	◇日露戦争の影響や朝鮮併合、条約改正交渉について調べる。 ・資料「日本の領土の変化」	日清・日露戦争後の社会について調べ、戦争の影響について理解している姿。	空間的 関係的	分類・比較
	⑦	◇産業の発展や日本人の国際社会での活躍について調べる。 ・グラフ「工場労働者の人数の移り変わり」	産業や教育の分野における営みについて、写真資料、統計、年表等の資料で調べ、科学の発展や社会の変化について理解している姿。	関係的	分類・比較
	⑧	◇生活の変化や権利を求める運動について調べる。 ・写真「全国水平社の大会で演説する少年」		時間的 関係的	国民の生活と関係付け
ま と め	⑨	◇学習問題に対するまとめを考え、学習を振り返る。 【学習問題に対するまとめ】 条約改正を果たすまでに日本は、憲法や国会をつくり国の仕組みを整えたり、外国に負けないように軍力を伸ばしたりして、西洋の国々に認められるまで国際的地位を向上させた。	条約改正を実現するまでの営みについて調べたことを基に、学習問題に対する考えを表現している姿。	時間的 関係的	総合

3 本時の学習

(1) 本時の目標

日清・日露戦争について、戦況や結果、戦争の影響に着目して調べることを通して、日本の国際的地位が向上したことを捉えることができる。

(2) 本時の展開（9時間扱いの5時間目）

◇学習活動・学習内容	研究との関わり・留意点				
1 学習計画から「日清・日露戦争」について調べることを想起し、課題を設定する（2分）。					
課題：日清戦争，日露戦争によって，日本はどのように変わったのだろうか。					
2 日清・日露戦争についてどのようなことが調べられそうか見通しを立てる（2分）。 ・どのようにして戦争が起こったか。 ・戦争の結果や影響。 3 見通しを参考にしながら，日清戦争，日露戦争について調べる（15分）。 【調べること】	◇社会的事象の意味を捉え，学びを深める調べ学習の在り方 研究視点2 ・調べ学習の進め方について提示する。				
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">日清戦争</th> <th style="width: 50%;">日露戦争</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 19世紀後半，日本は朝鮮に勢力を広げていた。 朝鮮の支配をめぐる，清と対立した。 日本が勝利し，下関で講和条約を結んだ。 多額の賠償金と領土を獲得した。 この勝利をきっかけに，アジアへと勢力を伸ばした。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 19世紀，欧米諸国はアジアへ勢力を広げていた。 勢力を広げる日本とアジアを南下していたロシアが対立した。 東郷平八郎の活躍により，ロシアのバルチック艦隊を撃破し，勝利を取めた。 </td> </tr> </tbody> </table>	日清戦争	日露戦争	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀後半，日本は朝鮮に勢力を広げていた。 朝鮮の支配をめぐる，清と対立した。 日本が勝利し，下関で講和条約を結んだ。 多額の賠償金と領土を獲得した。 この勝利をきっかけに，アジアへと勢力を伸ばした。 	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀，欧米諸国はアジアへ勢力を広げていた。 勢力を広げる日本とアジアを南下していたロシアが対立した。 東郷平八郎の活躍により，ロシアのバルチック艦隊を撃破し，勝利を取めた。 	<div style="background-color: black; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> <h3 style="margin: 0;">調べ学習の方法</h3> <p style="margin: 5px 0 0 0;">①資料や表現を選択する</p> <p style="margin: 5px 0 0 0;">②カテゴリー(分類)づくり</p> <p style="margin: 5px 0 0 0;">③キーワードづくり</p> </div> <p>キーワード:全体に当てはまることや中心となる事柄</p>
日清戦争	日露戦争				
<ul style="list-style-type: none"> 19世紀後半，日本は朝鮮に勢力を広げていた。 朝鮮の支配をめぐる，清と対立した。 日本が勝利し，下関で講和条約を結んだ。 多額の賠償金と領土を獲得した。 この勝利をきっかけに，アジアへと勢力を伸ばした。 	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀，欧米諸国はアジアへ勢力を広げていた。 勢力を広げる日本とアジアを南下していたロシアが対立した。 東郷平八郎の活躍により，ロシアのバルチック艦隊を撃破し，勝利を取めた。 				
4 調べたことを交流する（10分）。 ・朝鮮での勢力をめぐる，清と対立し，日清戦争が起こった。 ・日清戦争に勝利した後に，日本が大陸で勢力を伸ばすことを警戒したロシアとの間で日露戦争が起こった。 5 「2つの戦争によって…」の続きを考え，交流する（5分）。 ・領土を広げた。 ・海外から認められ，国際的地位を向上させた。	・交流の後に，世界の人々の日本の見方が変化していったことを示す資料を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; font-size: small;"> <p>元宮内省御用掛のドイツ人内科医エルウィン・フォン・ベルツ 「かくてまたもや世界歴史の1ページがそれも、現在ではほとんど見通しのつかない広大な影響を有する1ページが完結されたのである。 今や日本は陸に、海に、一等国として認められた。われわれが東亞において、徐々ではあるが間断なく発展するのを見たその現象が、今や近世史の完全な新作として、世界の注視的になっている。アジアは世界の舞台に登場した。」</p> </div>				
6 個人でまとめを書き，全体でまとめる（8分）。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; font-size: small;"> 日清戦争は，朝鮮をめぐる清との戦争で，戦争に勝利した日本は領土と賠償金を得た。日露戦争は，満州で勢力を伸ばすロシアとの戦争で，苦戦しながらもロシアに勝利した。この戦争によって日本の軍事力が認められ，国際的地位を向上させた。 </div>	◇社会の在り方や自己の生き方を問いつける姿を見取る評価 研究視点3				
7 学習の振り返りをする（3分）。	【知識・技能】 調べたことから，日本の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。（発言・ノート）				

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

調べ学習を基に，日清・日露戦争の影響を考え，日本の国際的地位が向上したことを捉える姿。

4 授業の実際

社会的事象の意味を捉え、学びを深める調べ学習の在り方

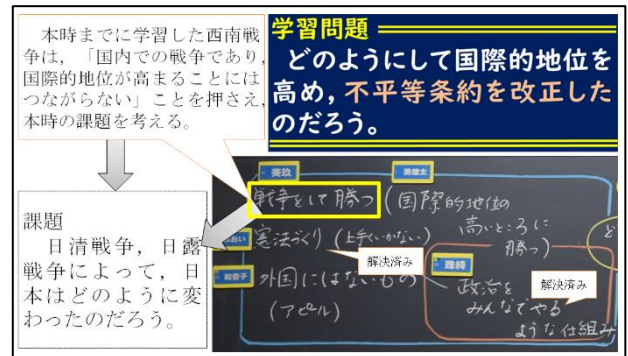
社会の在り方や自己の関わり方を見いだすためには、問題解決の過程で社会的事象について調べ、社会的事象の意味を捉えることが必要だと考えました。具体的には、目に見える事実について理解することに加えて、社会的事象の意味や役割等について考える活動を設定し、学びを深める調べ学習の在り方について研究を進めました。

本時では、学習問題設定後に立てた予想を基に、日清戦争・日露戦争という国際的な戦争について調べる必要があることを押さえ、本時の課題を立てました。

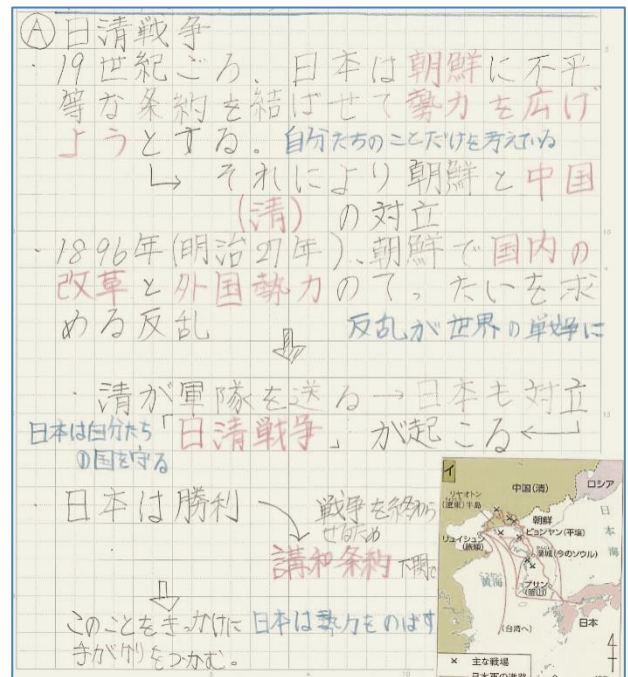
その後、本時の課題を解決するために調べるこの見通しを立て、調べ学習を始めました。調べ学習では、教科書や資料を活用しながら、社会的事象の意味を捉えることができるよう、以下の3つの方法で調べ学習を進めることとしました。

調べる方法	児童の姿
①資料や表現を選択する。	課題を意識しながら、必要な情報を収集する。教科書に掲載されている資料を1枚にまとめられたものが配られ、必要な資料を切ってノートに貼る。
②調べたことを分類する。	調べたことを羅列的にノートに記すのではなく、まとまりやつながりを考える。本時では、「日清戦争」「日露戦争」に分けて調べた児童が多かった。
③キーワードを考える。	「つまり」「それによって」等といった思考で、キーワードをつくる。

A児は、調べ学習において、教科書の「日本、朝鮮に不平等な条約を結ばせて」という記述を基に、「つまり」という思考を使い、「自分のことだけを考えている」というキーワードをつくりました。また、「日清戦争の戦場」を示す地図を用いて、「日本は勢力を伸ばす」というキーワードを考えました。教師の発問で学びを深めることはもちろんですが、社会的事象について調べる時間を設定し、自らキーワードを考えることによって、社会的事象の意味や役割に迫ることができました。



【本時の課題設定までの流れ】



【A児の本時の調べ学習時のノート】

社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける姿を見取る評価

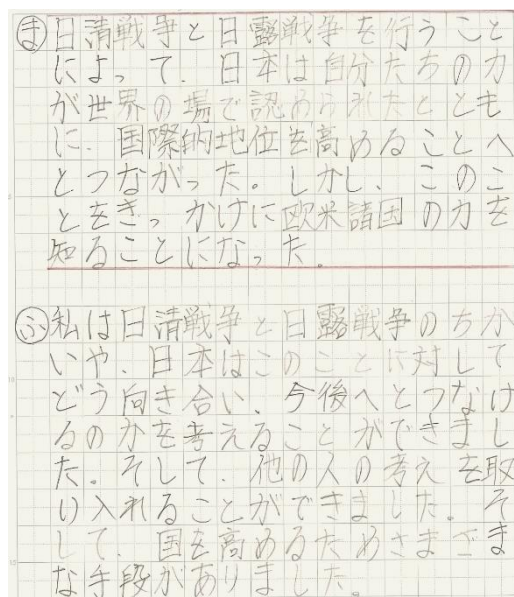
学習内容を自分の言葉でまとめたり、学習を通して自分が感じたことや学び方について振り返ったりする時間を1時間の終末部に設定しました。記述内容を基に、教師が適切にフィードバックすることができるのはもちろん、こうした記述の蓄積によって、児童の追究への意欲を持続させ、社会の在り方や自己の生き方を問い続けさせることにつながると考えました。

本時では、以下の記述を想定しました。

学習のまとめ	日清戦争は、朝鮮をめぐる清との戦争で、戦争に勝利した日本は領土と賠償金を得た。日露戦争では、満州で勢力を伸ばすロシアとの戦争で、苦戦しながらも日本はロシアに勝利した。この戦争によって日本の軍力が認められ、国際的地位を向上させた。
--------	--

本時のまとめの前に「軍事力の強化」「領土の拡大」「国際的地位向上」に着目できるよう、日清戦争・日露戦争について調べたことを基に、「2つの戦争によって…」の続きを完成させる文を考えました。文の続きを考える発問をしたことで、「日本の勢力を広げることができた」「さらに軍事力を高めることができた」「近代国家に勝利したことで国際的地位を高めることができた」といった多様な考えが生まれました。また、本時の前に想定していなかった「これだけ、大きな被害だったのから国民の不満は高まっていった」「欧米諸国の実力を知ることになった」という次時の学習にもつながる意見もありました。

B児は、2つの戦争によって国際的地位が向上したことに加え、日本が新たに直面した課題にも迫ることができました。「社会がどのようになったのか」自分の言葉でまとめることによって、目に見える事実だけでなく、社会的事象の意味や役割に迫り、さらなる追究への意欲につながりました。



【B児の本時のまとめと振り返り】

IV 2年次研究の成果と課題

2年次研究では、「社会的事象の意味を捉え、学びを深める調べ学習の在り方」「社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける姿を見取る評価」を重点として、研究を進めました。

1 研究の成果

- 学習問題の設定、予想、計画といった単元前半部の構成を確立することで、児童は調べたことを明確に捉えるとともに、単元を通して学習問題を解決する意識も高めることができました。
- 「資料や表現を選択する」「調べたことを分類する」「キーワードを考える」といった3つの方法で調べることによって、追究意識をもって社会的事象の意味に迫ることができました。
- 学習内容を自分の言葉でまとめたり、学習を通して自分が感じたことや学び方について振り返ったりすることによって、児童自ら学びを深めるとともに、追究への意欲を持続することもできました。

2 今後の課題

- 児童が情報を収集、選択することによって、調べ学習に時間を要したり、内容が一面的になったりしました。時間配分や調べる内容、調べ方について精査する必要があります。
- 1時間の学習や学習問題に対するまとめを表現する場面で、想定していた内容まで達することができていない児童に対する手立てについて明らかにする必要があります。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 社会編 文部科学省 日本文教出版 平成29年6月
- 初等教育資料 No. 979「新学習指導要領に向けた指導の在り方」文部科学省 東洋館出版社 令和元年5月
- 初等教育資料 No. 989「学習評価の改善と指導の充実」文部科学省 東洋館出版社 令和2年1月
- 見方・考え方 社会科編 澤井陽介・加藤寿朗 東洋館出版社 平成29年10月
- 社会科教師の授業・学級づくり 小倉 勝登 東洋館出版社 令和2年7月